

# 活動報告書

報告者氏名：齋藤 枝里

所属：大分県立宇佐支援学校

記録日：H.26年 2月14日

## 【対象児（群）の情報】

○学年：高等部2年生男子

○障害名：知的障がい

○障害と困難の内容：

- ・ 慎重な性格や経験不足から、苦手に感じていることが多い。
- ・ なかなか「自立する」ということを受け入れられない様子がある。
- ・ 相手の思っていることや、その場の雰囲気を読み取ることが苦手で、コミュニケーションに課題を抱えている。特に、同級生とはトラブルになることが多いが、大人に対しては丁寧な言葉遣いや態度でマナーを守ったコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 注視することが苦手である。

## 【活動目的】

○当初のねらい：「一人でできた」という経験を重ねることで活動や生活の幅を広げ、より具体的なコミュニケーションの回り方を知ることで現在持っている力を更に高める。

○実施期間：平成25年5月～

○実施者：齋藤枝里

○実施者と対象児の関係：担任

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

○対象児（群）の事前の状況

- ・ 慎重な性格や経験不足から苦手に感じていることがたくさんあり、母親や妹に頼り切って行動するところが見られていた。
- ・ 家での手伝いなどは、ほとんどしていない。内容によって、自分の中で男の仕事と女の仕事に分けている様子があり、男の自分は「しない」と決めているところがある。
- ・ 指先を使う細かい作業等は苦手である。靴ひも等を結ぶことも苦手なため、誰かに自分からお願いすることもできずに、その場でどうしたら良いか悩んでうずくまっていることがある。しかし、できるようになりたいという思いはあり、その気持ちを教師に伝えてくることもある。ひと結びからが課題である。
- ・ 自分の得意不得意はある程度理解しており、自分のできる範囲で頑張ろうとする様子が見られる。
- ・ 注視することは苦手だが、写真よりも動画の方が注視している時間が長い。更に、聴覚的な情報も入っていると、情報を動画に重ねることができて理解しやすいようである。
- ・ 個人でスマートフォンを持っているが、メールや電話はほとんど利用せず、インターネット機能で気になっていることを検索したり、YouTube等で動画を見たりすることに利用している。
- ・ Twitter を利用しているが、あまり好ましくない内容を書き込んでいることが多く、情報モラルについてのマナーが守られていない。
- ・ 今年度は修学旅行に行くということで楽しみにしている反面、初めて飛行機に乗るという不安がかなり大きく、修学旅行の話をするとうライラする様子が見られていた。また、人混みが苦手という自分のことを理解している面があり、ディズニーランドには特に不安を抱えていた。

## ○活動の具体的内容

### ①ひと結び、リボン結び、ご飯の炊き方の練習：「カメラ」+iBooks Author+「iBooks」



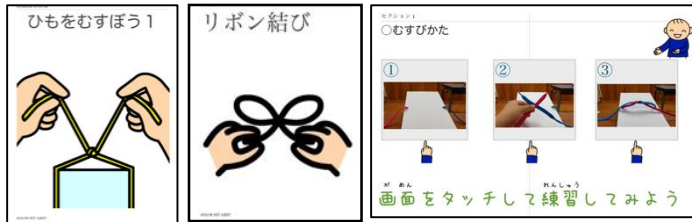
iBooks Author

- ・iBooks Author で動画などを組み入れてテキストにし、「iBooks」の中に入れて、必要な時に引き出して利用できるようにした。
- ・ひと結びとリボン結びは、どのような仕組みで紐が結ばれていくのかが理解しづらいようであったため、以前、本校の高野嘉裕先生が魔法のプロジェクトで実践されていた事例を参考にして、生徒の目線で取り組むことができるように動画を撮影した。
- ・しかし、注視するのが苦手な上、手元で作業をしながら機器を扱うことがあまり得意ではないため、動画はなるべく短くして手順を分けるようにした。
- ・動画を撮影するにあたり、聴覚的な情報も入るように音声を入れた。

☆iBooks Authorは、アプリではありません



iBooks



### ②飛行機の利用の仕方についての学習：iBooks Author+「iBooks」

- ・上記のひと結びの学習と同じように、テキストを作り「iBooks」の中に入れて、必要な時に引き出して何度も確認ができるようにした。
- ・飛行機の利用に関して不安はあるが興味はあるという様子で、自分でインターネットを使い飛行機についての情報を集める様子もあったが、その大半が「墜落」などの更に不安になるような内容であった。そこで、なるべく本人が楽しめる内容のクイズを入れたり、利用の流れが具体的に理解できるテキストになるように工夫をした。



### ③校外学習や修学旅行での公共交通機関の利用の学習：「Maps」+「乗換ナビ」+インターネット+「計算機」

- ・調べ学習の当初の計画は、学年全員で PC や iPad を利用してインターネットで調べるように計画をしていたが、より実用的に多機能型情報端末機器を利用することを考えて、生徒の実態に応じてスマートフォンも利用するようにした。
- ・研修場所の情報を、インターネットを利用して得る。
- ・学習の中で iPad やスマートフォンに関しては、最初に「Maps」や「乗換ナビ」のアプリの利用の仕方を提示。

※調べたこと…JR の出発、到着時間  
運賃  
その場所までのかかる時間



Google Maps



乗換ナビ

「Maps」と「乗換ナビ」は、対象生徒の持っている Android 携帯にも iPad にも共通したアプリであり、使い方を知れば生徒たちで教え合いながら利用することが可能であると考えた。特に「乗換ナビ」は、電車の発着時間や運賃、所用時間等を調べるには出発到着の駅を入力するだけで良い。どちらのアプリも、調べたいことの情報をまとめて得ることができるので、生徒たちも素早く情報を得ることができる。しかし、「Maps」の方がもともと担当生徒の持っている機器に入っていたアプリであるため、実用的に使いやすいと考えた担当生徒はこれを利用した。

- ・校外学習や修学旅行の当日、対象生徒はスマートフォンの「Maps」を利用しながら行動した。
- ・事後学習では、出納管理の際に「計算機」を利用して出納帳を整理。

#### ④ディズニーランドの研修計画と実施：「ディズニーの待ち時間」＋インターネット

- ・ディズニーランドでの研修計画を立てるために、『ディズニーの待ち時間』という Android のアプリを使って、アトラクションのリアルタイムの待ち時間等を調べた。
- ・インターネットでは、ディズニーランドのホームページからアトラクションの動画等を検索し、どのようなアトラクションなのかイメージを掴んだ。
- ・研修当日は、リアルタイムの待ち時間を調べるなどして、時間を有効に使えるように利用した。



ディズニーの待ち時間

#### ⑤情報モラルについての学習：「ネット社会の歩き方」

- ・「ネット社会の歩き方」の高校生版、中学生版、小学生版のそれぞれに内容に応じて利用。動画での具体的な事例が見られるため、対象生徒も興味を持って見ることはできないかと考えた。「ネットで悪口は要注意」「ネットで悪口が罪になる」「チャットで個人情報と言わない」等で学習。
- ・Twitter の良くない書き込みは、どういったものなのかを見直すため教師と一緒に投稿を確認した。



ネット社会の歩き方

### ○対象児（群）の事後の変化

#### ①ひと結び、リボン結び、ご飯の炊き方の練習について

- ・ひと結び、リボン結びに関しては動画を利用する前までは教師を真似ながら行っていたが、自分の手の位置がどのようになっているのかが分かりづらいようであった。生徒目線の動画にしたことで、手の位置などの把握がしやすいようだった。



- ・はじめにひと結びに取り組み、何度も練習を重ねることで動画を見なくても早い段階で一人で結ぶことができるようになった。紐だけでなく袋を結んだり、生活に必要な場面で自然にこの結び方を利用する様子が見られるようになった。
- ・リボン結びは当初かなり苦労していたが、動画を手順ごとに短くまとめておくことで練習がしやすいようだった。色の違う2本の紐が結べるようになったら、同じ色の紐を結ぶというように実際に靴ひもを結ぶまでに段階を追って練習を重ねた。



リボン結びが一人でできるようになり、靴紐がほどけると自分で結び直す様子が見られている。今まで苦手意識が強かったため、家庭で「やってみて」と言われても結ぶ練習すらにも取り組もうとしない様子もあったようだが、できるようになったことで





家庭の中でもすすんで結ぶ様子が見られているようである。

- ・ご飯の炊き方練習は、共働きの保護者からの相談があり、夏休みの宿題というかたちで取り組むようになった。当初「それは、妹の仕事ですから」と言い、積極的な様子は見られなかった。しかし、両親が高齢になっていくことや、妹が結婚して家を出る可能性もあるということを考えさせ、その時の自分を具体的に想像してみることで「僕も、自立します」という発言が聞かれるようになった。本人も、「夏休み、頑張ってお飯を炊きますからね!!」と、前向きになっていた。

しかし、夏休み中の様子を聞く限り、自分から進んで取り組む様子は見られなかった。たくさんの先生方のアドバイスを頂き、この取り組みは本人にとって「今」なのではなかったのではないだろうかと考え、もっと身近なことから取り組んでいくことを改めて保護者の方と話し合った。

## ②飛行機の利用の仕方についての学習



- ・飛行機に関する事前学習の日に欠席だったため、このテキストはかなり役立った。休み時間や自宅でテキストを開いて何度も飛行機に乗る流れを確認していた。

- ・修学旅行当日も、空港でiPadを開いてテキストを確認していた。保安検査場を通る時の荷物整理も一人で行えて準備ができていたが、鳴らないだろうと思っていたベルトが探知機に反応してしまうという予想外のできごとが起きた。

ベルトを外すように検査員の方に言われて

「こんなところで脱がされるなんて…」と、戸惑う様子も見られたが、

指示に従って検査を済ませることができた。再度テキストを確認し、落ち着いて搭乗をすることができ、帰りの飛行機では、予めベルトを外しておくなどの対処をして保安検査場を通過することができた。



## ③校外学習や修学旅行での公共交通機関の利用の学習

- ・校外学習の事前学習では、インターネットで検索をしようとしている生徒が多かったが、アプリを使って調べている生徒の方が早く調べることができていたことに気づき、自分も使ってみようという声がかれた。また、同じように対象生徒も早く簡単に検索できることに気づき、教師が「バス停から学校までの歩いてかかる時間を調べてもらえますか？」と課題を出すと、「いいですよ!!ちょっと待っててくださいね」と、積極的に学習に取り組んでいた。

- ・校外学習の当日は、スマートフォンで現在地を確認しながら目的地まで歩いた。自分の歩いている位置と目的地まで近づいてくると、「先生、ばっちりですね」と、だんだん発言も増え、自信を持って歩く様子を感じた。

- ・事後学習では、筆算を使って時間をかけて出納帳の記入をしていたので、計算機を使うことを提案した。すると、「そうか!」という表情になり正確に記入をすることができた。



**修学旅行は、この校外学習の取り組みを生かし、更に将来友だちと一緒に旅行をすることも意識した学習になるように取り組んだ。**

- ・時刻表などの調べ学習はアプリを使って行うことができ、友だちが提示した交通機関と自分が調べた交通機関のどちらが安くて早く目的地まで着くのかなどを考え、利用する交通機関を決めた。しかし、グループ研修の場所を決める際、自分の行きたい場所との折り合いがつかず、友だちに暴言を吐い





たり拗ねたりする様子が見られた。何度か話し合いをしたが、結果的に自分がそれぞれの提案場所を地図で探して位置を確認することで、意外に場所が近いことが分かり、何とか時間を調整してどちらも楽しめる方法がないかと考える姿が見られるようになった。また、どちらも調整が難しい場合は友だちの意見を優先させようとする発言もあった。

- ・修学旅行当日は、自分の現在地の確認や目的地までのナビゲーションとしてアプリを活用した。目的地まで友だちをナビゲーションする際に少し遠回りの道を選んでしまったものの、「すみません」と言いながらも最後までナビゲーションした。とても張り切って先頭を歩いていた。
- ・少し、計画と時間がずれてしまった際は、『乗り換えアプリ』を使って計画を立て直す案を出すことができた。



#### ④ディズニーランドの研修計画と実施

- ・友だちから「一緒にアトラクション、たくさん乗ろうね」と誘われ、当初はそれを断り続けていた。しかし、ディズニーランドのホームページからアトラクションの動画を見るなどして、自分で誘われたアトラクションについて調べる様子があった。

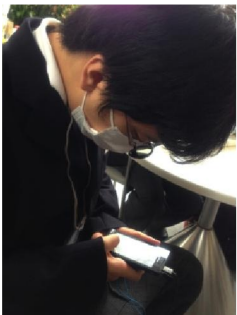


また、『待ち時間アプリ』から、だいたいどのアトラクションが混雑するのかなどを見極めて、友だちに伝えて一緒に計画を立てた。

- ・教師から、どのアプリが便利なのかを尋ねられ、使っている待ち時間アプリを教えることもできた。



- ・当日は、混雑に多少イライラした様子はあったものの、計画したアトラクションのリアルタイムの待ち時間を度々スマートフォンから調べ、計画がスムーズに行くか確認をした。不安なアトラクションに乗る際は、自分で直前に動画を開いて見通しを持った。



#### ⑤情報モラルについての学習について

- ・アプリ内の事例を集中して見続ける様子があった。見終わったあと、教師が感想を尋ねると、「インターネットが危険なことは僕も知ってます」と答えた。
- ・一緒に Twitter の書き込みを振り返り「ルールを守って書き込みができていないかな？」と尋ねると、良くない言葉には気づくことができたが、社会情勢などに関わった好ましくない書き込みには気づくことができなかった。その場で気づかなかった書き込みが、なぜいけないのか二人で話し合い、少し理解をした様子も見られたが時間が経つと、また同じような好ましくない書き込みがあった。
- ・しかし、定期的に一緒に書き込みを確認することで好ましくない書き込みは減ってきている。また、良くない書き込みをしてしまったことを自分から教師に伝える様子も見られている。

#### 【報告者の気づきとエビデンス】

##### ○ 主観的気づき

状況に応じて端末をうまく利用しながら友だちと一緒に行動したり、自分なりにその場を楽しもうと調整したりする道具として活用する様子が見られるようになった。また、「一人でやってみよう」という積極的な様子も少しずつ見られるようになってきており、困った時などには行動するための手助けになるような情報を端末から得ようと前向きな様子もうかがえた。



## ○ エビデンス（具体的数値など）

修学旅行中、騒がしいところが苦手な生徒であるので、学年全員で最初に乗ると予定していたアトラクションにも「乗りません」と言っていた。しかし、当日はイヤホンで音を遮断し、乗っているアトラクションの紹介を端末で探すなどして、みんなと行動するための工夫を考えて行っていた。



また、楽しみにしていた研修場所が、天候が悪いことで急に行けなくなるというハプニングがあり、その後の旅程に参加できるか心配したが、バスガイドさんの解説を録音するという、帰ってからも楽しめる方法を自分で考え、状況を納得させる様子が見られた。

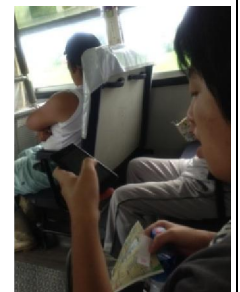
修学旅行が終わると、「先生、今回連れて行ってありがとうございました」と本人から丁寧なお礼の言葉もらった。色々なハプニングがあったが、本人なりに工夫をして、不安に感じていた修学旅行を楽しめたのだということを感じることができた。

## ○その他エピソード（画像などを含めて）

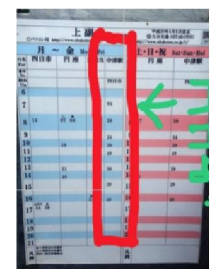
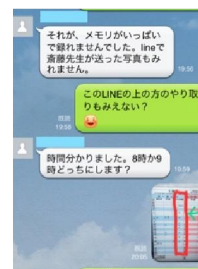
\*スマートフォンを利用しながら公共交通機関に乗った学習の延長で路線バスを利用して実習先への通勤練習を行った。

住んでいる地区のバスの数が少ないため、時刻表を調べるアプリの利用はできなかったが、バス停まで行って時刻表を写真に撮って保存する方法を考えさせた。

療育手帳を見せると料金が半額になることを校外学習で学んでいたため、自分で運賃表を見て『計算機』の機能を使いながら半額の計算を行うことができた。



一人で利用する練習の際は、乗るバスの時間を決めるのにスマートフォンのデータがいっぱいで、保存していた写真が開かず確認できないということがあった。しかし、本人とLINEでのやりとりを行っていたため、過去に送り合った画像がLINEの中に残っており、確認ができたということがあった。なかなかメールを使わない生徒だったが、これを機会に困ったことや伝えたいことがあったときなどは、メールをくれようになった。



\*また、ファーストフード店のクーポン券が付いたアプリを自ら入れていたが、使い方が分からないようだったので登録などを一緒にして初めて利用をした。

「これなら、僕も一人でできそうです」と前向きな言葉があった。しかし最近、家族で行った際にはドライブスルーを利用することが多く、本人は、なかなかアプリを使うチャンスが無いと聞くことがあった。そこで、ドライブスルーでもこのクーポンアプリが使えることを伝え、使い方を教えると「僕は今まで損をしていました!!」と悔しがり、「今度は必ず使います！」と更に活用を広げようと意欲的な様子があった。